

日本ビーチボール協会審判部 実技講習会報告書(統一事項)

1. 日 時 : 令和6年5月26日(日) 9:20~11:30

2. 場 所 : 東京都台東区 柳北スポーツプラザ

3. 出席者 : 東京都 田村、和田、堀、市川、播磨
滋賀県 山中、布施、細川
愛知県 大橋、金井
奈良県 花岡、鳥家、奥井
埼玉県 森田、富岡、荻澤、上田、大木、井上
岩手県 高橋(広)、高橋(紀)、阿部、川崎、北條、橋本

富山県 田中
新潟県 恩田
長野県 室橋
福岡県 秋山、山口

(以上 30 名)

4. 内容

(奈良県ビーチボール協会)

① ブロックによりワンタッチが確認された場合、シグナルで主審に知らせる。

→副審はワンタッチ毎にシグナルを行うのか？

基本的には毎回出す。(オーバータイムに関わる為)

② ゲーム中の質問について、副審や線審へ確認を求める状況をよく見かける。

→主審判断で副審、線審へ確認すると認識しているが、最近選手側の確認要求が多くなってる様に感じる。

審判団の判断が同じなら確認する必要はない。

主審の気付かないところでの判断は、副審又は線審を呼んで確認する。(主審の判断による)

主審が(間違っ無いと)判断したものは貫いて良い。

シグナル等では、把握出来ない場合等は副審又は線審に確認する。

(滋賀県ビーチボール協会)

③ 隣接する空きコートに入った場合の判定に統一性が無い。審判によってプレー継続の可否が分かれま
した。競技部、審判部で統一して頂けないか？

ネットが張ってあるものは隣接コートとみなす。

ネットが張ってないものは隣接コートとみなさない。

(ボールデッドするのは危険がある為、危険が無ければフリーで良い。)

但し、隣接コートのネットが撤去されず、緩めてる場合(以後試合が無い)は危険が無いと判断しても
良い。

試合をしてる両チームが平等なら良い。

試合前の整列時、主審は隣接コートの状態を確認してプロトコール時、選手に(隣接コートに入って
OKかNGか)伝え、その試合は完結する。(試合中に隣接コートが撤去されても変えない。)

隣接コートの中にも NG(ボールデッド)。

- ④ 選手からの質問に主審が受けすぎて協議に時間がかかり、その為試合時間も長引てると感じました。全て受け入れるのではなく、主審が確信している判定については毅然と対応してはどうか？

②と同回答

- ⑤ 最新の通達事項を把握出来てない主審が多いと思います。各協会ですら事前に対応してもらえないか？

例) 交代選手、タイムアウトが残っているのにレフリータイムを取っている。

各協会ですら通達(事前)して、なるべく全員に周知する様に。

例)東京都、富山県は HP に載せている。

(富山県ビーチボール協会)

- ⑥ サーバーがサービスを打った瞬間に、サーバー後方の選手の身体の一部がサーバーの身体より前に出た場合の判定について、アウトオブポジションなるかならないか…。

(但し後方の選手軸足がサーバーより後ろで床につける場合)

足が床に接している場合は審判の手引き P10、選手の位置②の通りに判定する。

アウトオブポジション回避の為にジャンプは禁止する。

違反した場合はアウトオブポジションの対応をする。

- ⑦ 1つのプレーに関しては質問は1回だけ？

質問は1回だけです。

ワンタッチ、タッチネットがあった場合など、誰が？に答える必要はない。

- ⑧ 爪に関して

付け爪は NG。

ネイルの凸凹してるのは NG

- ⑨ サービス順について

副審がサービス順表に記入した時点で確定する。(記入後の変更は出来ない。)

- ⑩ 線審について

サーバーの反則やサービス順の誤りがあった場合、フラッグを振る(気付かせる)その後、原因シグナルを出す。

- ⑪ ボールがポールに触れた場合

主審のシグナルはアウトオブバンズのみ。(選手の理解が得られない場合はポールを指さす事も)

副審はポールを指さす。

線審はフラッグを振ってポールを指さす。

5. 埼玉県協会による試合運営のデモンストレーション実演

6. 統一事項

令和6年度審判部指針

- アウトオブポジションの早期解決。
- インターフェアの適正適用。
- ◎ アウトオブポジションの確認の徹底。
- ◎ 選手の反道徳的な行為の抑制、講習会等にて2点を特に重視した指導。

以上